シンガポール社員旅行に家族で参加

社長 右城 猛

まえがき

今年の社員旅行は、日数と予算額を決め、その 範囲内で JTB に国内 5 案、海外 5 案を提案して もらい、社員に希望を聞いた。その結果、1 班(5 月 9~11 日)と 3 班(5 月 23~25 日)が沖縄、2 班 (5 月 16~19 日)がシンガポールに決まった。

私たちは、家内の希望でシンガポールに決めた。 沖縄は 1989 年に社員旅行で行っている。家族で も 2014 年に行っている。シンガポールは 1996 年 の社員旅行以来である。前回は夫婦で参加した。 今回は 8 歳になった孫も一緒である。学校の授業 を軽視するつもりはないが、それ以上に外国を直 に経験させることが大事と思っている。

シンガポールでの 2 日間の観光と自由時間は、孫の希望を最優先させて行動した。

高知からシンガポール



5月16日4時45分に会社に集合し、5時に貸し切りバスで広島空港に向けて出発した。参加者は38名である。

堀田家は祐希を見送るため家族で来ていた。 JTBからは瀧本文雄課長が見送りに来てくれていた。



広島空港には予定通り8時30分に到着。

10 時 25 分発の LCC「シルクエアー」MI867 便 でシンガポール・チャンギ空港に向かう。飛行時間は 6 時間 20 分であるが、時差が-1 時間ある。 現地到着は 15 時 45 分の予定。



広島空港発から1時間後に機内食。



LCC「シルクエアー」の機内。前後のシートの間隔が若干狭い。





シンガポール・チャンギ空港からは貸し切りバスでホテルにチェックイン。

ッアーコンダクターは、昨年のドイツと同じ安 達晃子さん。



夕食は「ウルフギャングズ・ステーキハウス・ シンガポール」。

コースメニューは、スープ、サーロインステーキ、ほうれん草のクリーム、ポテト、スイートケーキ、コーヒー。



会食に先立ち、私から挨拶。



メインディッシュのサーロインステーキ。



今日は誕生日ではないが、5月生まれの参加者のために JTB からバースディケーキのプレゼントがあった。



デザート



食事を終えて店の外に出ると、見たこともない 格好いいスポーツカーが駐まっていた。

フェイスブックにアップすると、さっそく韓国の李社長から、イタリアのランボルギーニ社のスポーツカーで注文生産しているとのコメントを送ってくれた。

李社長がこの会社を訪問したとき、ヨーロッパのいくつかの国と日本からは注文者の名前があったが、韓国からの注文はなかったようだ。





宿泊したのは、マンダリン・オリエンタル・シンガポール。リビングルーム、寝室があり広い。



写真の右側はクローゼット、左側には洗面所と バスルーム、トイレがある。



部屋に入ってスーツケースから衣類を出していると、ホテルボーイがフルーツを持ってきてくれた。JTB の瀧本課長からの差し入れ。

シンガポール 2 日目(5 月 17 日)



8時30分ホテルで朝食。昨夜は疲れ切っていた祐希だが、今日はすっかり元気が戻った。



私の朝食。炭水化物は控えめ。



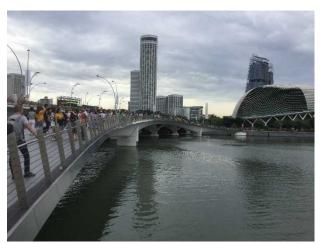
曲弦トラスのアンダーソン橋。橋を渡って左折すると、「マーライオン像」の建つマーライオン・パークである。23年前にも同じアングルで写真を撮っていた。



エスプラネード橋。7径間連続コンクリートアーチ橋。1997年に完成している。橋の上にはブーゲンビリアの花が咲いていた。



シンガポールのシンボルのマーライオン像と マリーナ・ベイ・サンズをバックに記念写真。





2015 年にシンガポール独立 50 周年を記念して 建設されたジュビリー橋。シンガポール建国の父 「リー・クアンユー」の葬列のため、予定を早め て 2015 年 3 月に開通したそうだ。

この遊歩道からマリーナ・ベイ・サンズ、マーライオンなどマリーナ地区の景色が一望できる。 写真撮影にはもってこいのスポット。





マーライオン像は 1972 年に造られたもの。23 年前に来たときは、ポンプの故障で水が出なくなり、世界三大ガッカリ名所と言われていた。

2002年に海際に新設されたマーライオン・ピア に移転され、前方から見えるように桟橋もつけら れた。故障していたポンプも修理され、人気を取 り戻している。



マリーナ・ベイ・サンズのスカイパーク。奥に はホテル宿泊専用のプールが見える。

このホテルは超人気で稼働率は 98%。予約を取るのが難しい。





マリーナ・ベイ・サンズのスカイパークから眺めたシンガポールの町並み。



喫煙エリア。シンガポールでは喫煙が著しく制限されている。黄色い枠線の中でなければ罰金が科せられる。ホテルの部屋の中も禁煙。もしタバコを吸ったら、シーツなどの洗濯代として5万円、タバコを無断で持ち込むと1カートン50万円の罰金が科せられる。

タバコも1箱500円と高い。







昼食は「マイ・オー・ビー」で中華料理。350mml のタイガービールが\$12、薬を飲むために水を頼むとミネラルウォータを持って来た。1本が\$5。メチャクチャ高い。



ガーデンズ・バイ・ザ・ベイの入口



スパーツリー・グローヴ。スーパーツリーの間に架けられている全長 128m の空中の遊歩道。祐希は母親に似て高所恐怖症。ビビりまくっていた。



背後はホテル「マリーナ・ベイ・サンズ」。屋上 にはサンズ・スカイ・パーク展望デッキと宿泊客 専用のスカイプールがある。



クラウド・フォレスト。35m の落差を持つ滝



空中を散策できる遊歩道



二日目の夕食は、レストラン「レッドハウス」 で、チリクラブなどのシーフード。





若者たちに人気のオシャレな町「クラークキー」



クラークキーで乗船し、リバー・ナイト・ルーズ。



マーライオン像



ライトアップされた夜のアンダーソン橋



マリーナ・ベイ・サンズのレーザーショーに思 わず歓声。音楽とレーザー光線と噴水のショーは 見応えがあった。



部材にアイバーが用いられている斜張吊橋支のカベナ橋(1929年)。

シンガポール3日目(5月18日)







2日目のホテルの朝食。魚肉に香辛料を絡めて 笹に包んで焼いたオター(Otah)。



私たち家族と金さんでタクシーに乗って「サントーサ島のカシノまで」と告げると、ホテル・マイケルの正面で止まってくれた。昨日、ガイドの大塚さんに「カシノ」と言えばタクシー料金が無料になると教えてもらっていたが、実際には\$21を要求された。

帰り、同じ場所から宿泊しているマンダリン・オリエンタル・ホテルまで乗ったが、料金は約半分の\$12 であった。大塚さんが、シンガポールのタクシー料金は、時間帯によって大きく変わると話していたことを思い出した。

セントウーサ島のマーライオンは、マリーナベイのものより一回り大きい。



カジノのあるホテル・マイケルのロビーに入ると、豊満な肉体をした2対の巨大な像があった。コロンビアの画家・彫刻家フェルナンド・ボテロ作の「アダムとイブ」という作品。彫刻家・大野良一先生の作風によく似ていると思った。



ユニバーサルの前で記念撮影



キャンディ専門店。「キャンデリシャス (candylicious)」。和恵に頼まれていたので帰りにここで土産用にキャンディを買う。メチャ美味しい。菓子の包み紙にはメイドインフランスと書かれていた。



マリタイム・エクスペリエンシャル・ミュージ アムの入り口。







嵐の航海を体験できるタイフーンシアターなど、海のシルクロードの交易の歴史が学べる体験型ミュージアムである。水族館と併設されていた。



世界最大級の水族館「シー・アクアリウムTM」。 館内の総水量は 4500 万リットルを誇っている。 東南アジアからアラビア海、さらに外洋まで、10 ゾーン、49 の生息地環境に分けて、計 800 種 10 万匹以上の海洋生物が展示されている。

人気があるのは、マラッカ海峡とアンダマン海 ゾーンにあるコーラルガーデン。高さ 8.0m の円 柱状の水槽には、カラフルで美しい生きたサンゴ 礁や熱帯魚が見られる。



最大の見どころと言われている「オープンオーシャン・ゾーンのビューイングパネルの水槽」。高さ8.3m、幅36.0m は世界最大級。

マンタ、ナポレオンフィッシュ、サメなどが泳いでいたが、沖縄美ら海水族館や大阪の海遊館の ジンベエザメに比べると迫力に欠ける。







午後は宿泊しているホテル「マンダリン・オリエンタル・シンガポール」の5階にあるプールで リフレッシュ。





プールの後は、ホテルの近くにある世界最大規模の観覧車「シンガポール・フライヤー」に乗る。 観覧車の直径は 150m。30 分で 1 回転する。

チケット料金は大人\$33,子供\$21,シニア\$24。 水族館「シー・アクアリウム™」に行ったとき、 私と家内はシニア料金で入場できたが、ここでは シンガポール人だけと言われた。







観覧車からの眺め



湾口堰「マリーナ・バラージ」。シンガポールの 低平地を洪水から守っている。マリーナ・ベイの 外はシンガポール海峡で、太平洋とインド洋を結 ぶ主要航路となっており、無数のコンテナ船が行き交っている。

シンガポール 1 時 45 分発の LCC「シルクエアー」MI868 便で広島空港へ。到着は 5 月 19 日の9 時。会社到着は 13 時 30 分。